

氏名	甲斐信生
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博乙第3816号
学位授与の日付	平成15年3月25日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文題目	腰椎透析性脊椎症におけるMRI画像診断と組織学的検討-特に椎体終板について-
論文審査委員	教授 平木祥夫 教授 佐々木順造 教授 光嶋勲

学位論文内容の要旨

透析患者の腰椎椎体終板のMRI分類を試み、手術症例からの病巣部(特に椎体終板)の組織学的検討により病態を研究した。

対象 腰痛や下肢痛を訴えた透析患者63例315椎間で、腰椎MRIを椎体終板の変化、椎間板の変性度、隣接椎体の変化について検討した。透析性脊椎症による手術例10例から病巣部を採取し、組織学的にアミロイドの沈着の有無、程度を調べた。

結果 椎体終板に着目して分類した結果、正常193椎間(61.3%)、不整68椎間(21.6%)、途絶54椎間(17.1%)であった。途絶群のうち辺縁型26椎間、中心型18椎間、広範型10椎間であった。組織学的にはアミロイドの沈着は靭帯組織や線維軟骨に局在しており、椎体終板の硝子軟骨には沈着を認めなかった。

結論 透析期間により途絶群の割合と中心型、広範型の増加を認め、中心型を初期像とするDSAを認めた。

論文審査結果の要旨

本研究は、腰痛や下肢痛を訴えた透析患者63例315椎間について、腰椎MRIにおける椎体終板の変化、椎間板の変性度、隣接椎体の変化を検討し、また透析性脊椎症による手術例10例から病巣部を採取し、組織学的にアミロイドの沈着の有無、程度を調べたものである。椎体終板に着目して分類した結果、正常193椎間(61.3%)、不整68椎間(21.6%)、途絶54椎間(17.1%)であり、途絶群のうち辺縁型26椎間、中心型18椎間、広範型10椎間であった。組織学的にはアミロイドの沈着は靭帯組織や線維軟骨に局在しており、椎体終板の硝子軟骨には沈着を認めなかった。透析期間により途絶群の割合と中心型、広範型の増加を認め、中心型を初期像とする破壊性脊椎関節症を認めた、と結論している。これらは、本症の発生機序に関して重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。